奈良県広報戦略の概要

1. 趣旨

【背景】広報に戦略が必要な理由	【目的】戦略的な広報により実現すること
デジタル技術の進展による情報環境の変化 ・情報があふれる社会 ・媒体の多様化(テレビ・新聞・雑誌+SNS) ・メディア利用時間の変化(ネット利用増、"ながら視聴") →情報が届きづらい世の中に	情報を必要とする方・情報を伝えたい方へ情報をきちんと届けること そのためには、「明確なターゲット・広報自体の目的を設定し、最適な広報媒体を選択」、 「粘り強く伝えていく発信」を広報の基本として取組むことが必要
人口減少の進行 ・事業を取捨選択しながらの行政運営 ・県民の自助・共助を促進 ・関係人口の創出 →広報に求められる役割が変化	「 県民の県政に対する信頼獲得 」 + 「 県民のシビックプライド醸成 」 + 「選ばれる奈良県」へ そのためには、「"県が大切にする価値観"と"えがく未来"をきちんと伝えること」、 「"県政のことは自分にも関わりのあること"と思える"しかけ・きっかけ"」、「奈良県の魅力をどんどん伝 えていくこと」が必要

2. 戦略の位置づけ

- ◆ **県民に対する3つの責任**(「県民や事業者の安心と暮らしへの責任」、「奈良県の子ども、若者の未来への責任」、「豊かで活力ある奈良県を創る責任」) をしっかり果たすために、職員は広報を政策実現を推進するためのツールとして活用する必要がある。
- ◆ 本戦略は、**職員が広報の意義を再認識し、戦略的に取組むための指針**として策定

3. 対象期間及び推進体制

【対象期間】 令和7年10月から令和10年3月末まで 【推進体制】 **職員の一人ひとりが広報パーソン**として取組む

※広報広聴課が司令塔となり率先して実施 奈良県行財政改革推進会議にて進捗状況・課題を検証

4. 戦略的に取組むこと

【取組】	[ねらい]	【実施すること】
重要施策の重点広報	・重要施策は、県が大切にする価値観が最もよくあらわれるもの ・「分かりやすさ」をこころがけ、県民の情報への触れ方・多忙な ライフスタイルを考慮した発信により、広く県民に伝えていく	 ■要施策の集中的な情報発信 年度始めに新規事業等を要点を絞りコンパクトにSNSを用いて発信 県政ショート動画を発信 定例記者会見の内容を図解・アナウンス入りでわかりやすくした動画、県事業のリアルな様子を取材した動画等をSNSを用いて発信 ▶ 知事定例記者会見の積極的・計画的な活用
魅力発信 プロモーションの強化	・奈良県の魅力は「暮らしやすさと豊かな文化・自然の共存」 県の持つポテンシャルを実在する価値として磨き上げている 県事業について、積極的に発信 ・情報が埋もれてしまうことがないよう、コンテンツの磨上げと 露出機会の拡大を図る。	 ★良県広報媒体の役割分担を明確化し、若手職員の創造力を活用したコンテンツづくり 県民等との共創型アカウントの育成県の魅力を県民と県が一緒になって発信する共創型SNSアカウントを育成を良スーパーアプリを活用し、利用者の属性を踏まえた情報発信 ★良県口ゴマークの使用を徹底し、奈良県の事業であることを明示
SNSを活用した 県民等との日常的な コミュニケーション の促進	・県民が日常的に気軽に使うSNSを用いて、多くの県民とのコミュニケーションを図る ・県政を身近なものに感じていただき、シビックプライドの醸成へとつなげる	 ▶ 丁寧な双方向コミュニケーションの実施 コメント内容やリーチ数等の指標を分析、ユーザーの想いを反映した運用 ▶ SNSアカウントの統廃合を実施、若手・中堅職員が中心のチーム制運営に ▶ ハブアカウントの育成 "ここをフォローしておけば大切な情報は届く"と県民が思える信頼性高い SNSアカウントを育成
職員広報力の向上	・県民等にきちんと情報を届けるために「広報の基本」を 踏まえて実践。前例どおりではなく、必要に応じてアップデート ・業務多忙な中でも取り組めるよう効率性・費用対効果の視点 をもった広報の実践	 ▶ 職員が広報の基本、コンテンツポリシーを身につける機会を確保 ▶ 外部の広報専門人材、新技術(生成AI等)の活用 ▶ 日頃の業務等における県民等との対面コミュニケーションを大切に 職員が創造的な業務に取組めるよう作業的な業務の効率化を進め、県庁外の方々との交流を通じて視野を広げ、広報活動にも良い循環を生み出す